



ミミズの取り組みについて

幼児棟の玄関に置かれている青色のボックスは、“ミミズマンション（ミミズコンポスト）”と呼ばれていて、シマミミズ（釣りの餌になっているもの）が住んでいます。ミミズマンションは3階建て。2階と3階にたっぷり土が入っていて、ミミズが行き来しています。3階に、野菜や果物を入れると、ミミズは野菜や果物を分解し土に返し、土の環境を整え、排泄物（おしっこやうんち）は、植物が育つ栄養となるのです。1階に溜まる液体を『みみずのちから』と呼んでいます。みみずのちからは、とても良い天然の液肥で、野菜はもちろん、花や観葉植物にも効果抜群です。

シマミミズを飼い始めたのは、20年以上前で、社会的にゴミの問題などが取りざたされるようになった頃でした。環境問題と並行して、人権保育の視点からも当番活動を見直し取り組みはじめました。『捨てればゴミとなって、みんなの地球が汚れるけど、ミミズにあげると栄養の土となって、きれいな地球を守るんや！』と、子どもたちと共に続けてきている取り組みです。一般的にミミズは、気持ち悪いもの、触りたくないというイメージをもたれがちですが、身近な活動経験から、このような意識も変わってほしいなあと願い、継続して取り組んでいます。

子どもたちにとっては、『科学の興味』への一歩になったり、当番活動を通して、友だちと協力することを知ったり、ルールがあることを学んだり・・・と、たくさんのことを学習できる活動です。自然との関わりを深め、生命の尊さにも気づくことができる、ミミズの取り組みです。どうか、おうちの方もミミズの取り組みを理解していただき、『ミミズって、すごいねなあ。』という見方で、子どもたちと一緒に興味関心を深めてもらえたら嬉しいです。

ミミズコンポストの当番は、新聞紙を細く裂いたり、霧吹きで水をあげたり、野菜や果物の皮などをあげたりします。指先を使ったり、様子を観察したりしながらの世話はぱんだ組が中心にしています。

ミミズコンポストの土と今まで使っていた土を混ぜて、野菜を育てるためのプランターに入れ、野菜の苗を植えました。栄養がたっぷりの土で、たくさんの野菜が実ればいいなあと思います。

4月30日にきりん組・ぱんだ組・くま組で『ミミズの引っ越し』をしました。きりん組の中には初めてミミズに触る子もいましたが、「怖くないよ」とぱんだ組が教えてくれたり、「こうやってもつんだよ」と優しくつまむことを教えてくれたり、くま組は「ミミズの卵を見つけたよ！」と見せてくれていました。



「新しい土のに入ったお家に、ミミズを引っ越しさせます」
お引越しできるかなあ〜ちょっとドキドキ。

ミミズのマンションが動いたよ。
いよいよ引越しだね。



土の色がこんなに変わるんだよ



古い土からどんどん出てくるミミズたち。「またいたよ〜」と見つけては新しい土に入れていきます。どんどん潜って行って、面白いね。



さすがくま組。スコップの使い方が上手で、あっという間に混ぜりましたよ。

